

協定締結で問題解決を

遠藤町長／双葉地方除染事業等・警察連絡会と協議

畑中 ①原発作業員や除染作業員の宿舍および民間家屋に居住しているのは9月現在何人ですか。

②まわりに見ず知らずの人々が増えることで、どのようなことが問題になっていますか。

③広野町で生活するにはルールを守ってもらう必要があります。

町と協定を締結するべきではないですか。

町長 ①平成26年9月9日現在2847人です。

②ゴミの出し方や生活道路での交通量の増加が問題となっています。仮設の事業所や宿舍から出るゴミは自らが処理するよう広報やチラシを作成し依頼しています。また、交通量の増加に伴う苦情に対しては、交通マナーに対する啓蒙啓発を行っています。

③協定の締結は、双葉地方除染事業等・警察連絡会のなかで協議したいと思います。

賠償はどんな姿勢で臨むか

遠藤町長／国へ強く訴えている

畑中 ①町民はすでに、精神的損害は被っていないと考えますか。

また、精神的損害とは何だと考えますか。

②第2回定例会の町長の答弁で、柔軟的に対応していく旨述べています。

柔軟的に対応とは、賠償についてどういう姿勢で臨むことですか。

③浪江町が町民の賠償増額のために可能性を追求している姿勢、その見習うべきではありませんか。

町長 ①心身共に大きな苦痛を受けていることから、国へ強く訴えています。

また、精神的損害は自宅以外での生活を長期間余儀なくされ、正常な日常生活の維持・継続が著しく阻害されたために生じた精神的苦痛を賠償すべき損害と考えています。

②国からの復興交付金事業を活用することで、様々な支援により町民の生活再建を図っていく考えです。

③ADRに特化した取り組みを行うことは考えていません。



畑中 大子 議員

年間1ミリシーベルトを堅持せよ

遠藤町長／引き続き堅持していく

畑中 ①国が年間被ばく線量1ミリシーベルトでなくても大丈夫と言いだしています。

町はこの変化をどのように考えますか。

②モニタリングポストが0・23マイクロシーベルトを超えて表示されることはありませんか。

また、除染に関する基準値は、これまでの年間1ミリシーベルトを堅持しますか。

町長 ①年間被ばく線量1ミリシーベルト緩和の議論は一方的に進められるべきではないと考えます。

②毎時0・23マイクロシーベルトを超える箇所は存在します。対処方法を環境省等と継続的に協議しています。

また、長期的な目標として追加被ばく線量年間1ミリシーベルト以下とする基本方針を引き続き堅持していきます。

家屋敷地内に落葉しない方策を考えよ

遠藤町長／引き続き堅持していく

畑中 ①広洋台に面する6号線沿いの街路樹に関して町政懇談会などで質問はありましたか。

②街路樹に関する作業を、委託するのは県ですか。

③樹木の高さ制限はありますか。

家屋敷地内に落葉しないような方策を考えるべきではないですか。

町長 ①第26行政区長より国道沿いの街路樹の枝払いの依頼がありました。

②街路樹の剪定作業は本年度予算化し、町が行いました。

③架線に触れない範囲で剪定を行っています。個人の敷地内に落葉しないような方策を検討したいと思います。



8月には子どもたちの再会事業を開催

中学校とみかんクラブの連携を図れ

浅野教育長／学校教育から離れ、難しい

遠藤 中学校は、生徒数が少ないことから部活動の種目が少なく活動内容も十分なものとは言えません。

そこで、中学校と総合型スポーツクラブ（みかんクラブ）とが連携することで新たな部活動の創立や活動内容の充実を図ることはできませんか。

教育長 中学生をスポーツクラブ（みかんクラブ）に参加させることは、学校教育の範囲から離れるので部活動としての取り扱いが、難しいところです。

しかし、中学校への指導者派遣などは、今後、協議したいと考えています。



遠藤 浩 議員



ふたば未来学園校建設予定地

保護者への説明責任をどう果たすのか

浅野教育長／保護者会の開催を予定

遠藤 ふたば未来学園高校の開設準備のため、広野中学校校舎が変わることに

より子どもたちに不利益が生じるのではないかと心配する声が多く上がっています。

今後の教育環境に対する方針と不安を訴える保護者への説明責任をどのように果たしていくのですか。

教育長 中学生用にフロアブース・施設等を改修し、それぞれ支障のないように調整し、相談室も設置し、教育環境の維持改善に努めています。

また、保護者の意見をいただき、理解をいただくため保護者会の開催を予定しています。

魅力ある学校教育構想に取り組み

遠藤町長／『広野町教育ビジョン』を考案

遠藤 学校を取り巻く状況は、ふたば未来学園高校の開校に加え、国が改正を

目指す小・中一貫校制度など、教育構想の変革期を迎えていると考えます。町として、他の市町村にはない魅力ある幼・小・中の学校教育構想に取り組むべきではないですか。

町長 町独自の教育と幼・小・中一貫した教育構想に取り組むべきと考え、本年度、『広野町教育ビジョン』を考案し、教育構想を具現化するため「小・中学校教職員ワーキンググループ」を組織し、計画づくりに着手しています。

①国が年間被ばく線量1ミリシーベルトでなくても大丈夫と言いだしています。

町はこの変化をどのように考えますか。

②モニタリングポストが0・23マイクロシーベルトを超えて表示されることはありませんか。

また、除染に関する基準値は、これまでの年間1ミリシーベルトを堅持しますか。

①年間被ばく線量1ミリシーベルト緩和の議論は一方的に進められるべきではないと考えます。

②毎時0・23マイクロシーベルトを超える箇所は存在します。対処方法を環境省等と継続的に協議しています。

また、長期的な目標として追加被ばく線量年間1ミリシーベルト以下とする基本方針を引き続き堅持していきます。